

ことが分った。今後継続して測定し詳細は次回報告の予定である。

文献 1) 鹿児島県工業試験

場業務報告 昭和35年 P11

2) 同誌 昭和38年 P19

3. 2. 8 〔題目〕温泉の研究(継続)

黒川 達爾雄

〔要旨〕鹿児島大学の関係者と共に、調査研究を行ないつつある。

本年度は、指宿温泉についてその一部がまとまったので、下記によって報告した。

鹿児島温泉研究会 指宿地区の温泉(その1)

3. 3. 雑 録

3. 3. 1 技術指導および諸調査

(1) 調査

でん粉工場汚水調査

〔目的〕鹿児島県下のでん粉工場汚水の実態を把握し汚水処理対策の基礎を確立するため県工鉱業課と工業試験場と共同で調査を行なった。

〔調査日時〕 昭和40年11月15日から11月17日までの5日間

〔調査地区〕 大隅地区(鹿屋市から志布志町にかけて有明湾一帯の主要河川とその附近のでん粉工場の一部)

〔調査人員〕 工鉱業課 1 名
工業試験場 4 名 計 5 名

〔調査状況〕 調査結果については昭和40年12月8日付別途報告書に詳細を述べた。

本調査によって肝付川水系などのでん粉工場廃水による汚染が相当著しいことが確認でき

た。汚水処理法としてどのような方法を選べばいいかについて判定を下すことは現段階では困難である。然しながら重要な問題であるので検討を続ける計画である。

(2) 技術指導および相談

工業用水について、各種企業の工場整備と各地でビルの建設が進むにつれ冷却水、ボイラー用水等についての問題が非常に増加した。

また工場廃水問題も従来余り問題にならなかった中小工場について取上げられてくる傾向が強くなった。

染色関係については各種高級染料の使用による大島紬製品の品質向上に鋭意努力した。

その他各種燃料、工業薬品、工業材料等について技術相談があった。

件数-----計 389件

3. 3. 2 依頼分析試験

(1) 依頼による分析、試験

件数としては前年より減少の傾向があるが燃料類の減少に対しメッキ液、工業薬品、プラスチック等多種目にわたり、また複雑なものが多くなってきた。また工場廃水の分析依頼が著るしく増加した。

件数-----1825件

(2) 鑑定-----195件

3. 3. 3 講習会

染色技術講習会

1. 40年6月25日 参加者 60名
2. 40年10月6日 参加者 71名

3. 3. 4 技術者養成等

実習生指導養成-----大島紬染色関係 1 名

夏期学生実習-----染色技術 2 名